

# 2006

ユニセフが提供した仮設校舎と「スクール・イン・ア・ボックス」キット（学用品セット）によって、モルディブのすべての小中学生が学校に戻ってきました。津波によってモルディブにある学校の約半数が、全半壊したために授業が出来ない状態でした。



1月25日

2月 スリランカのハンバントタ県ゴナデニヤ村で、初めて保健センターが設立されました。このセンターは、津波復興支援の一環で、ユニセフが支援した35の保健センターのひとつです。



4月5日 モルディブには現在、淡水化装置が23機設置されています。津波によって雨水による給水設備が破壊された島々にも、この機械によって海水を真水に変え、きれいで新鮮な水が届けられています。

2005年9月27日から2006年4月12日まで行われたポリオ予防接種キャンペーンによって、アチェに住む約50万人の5歳未満児が予防接種を受けることができました。



4月12日

5月 ユニセフは、インドネシアのアチェにある23の村々に給水設備とトイレを建設、引渡しを行いました。



インド・タミルナドゥ州で最も津波の被害が深刻だった3つの地域で、包括的な学校教育改善プログラムが開始されました。

6月

「津波発生前より良い社会サービスを」の一環で、10月30日 教員支援センターが設立されました。同様のセンターは今後19ヶ所に設立される予定です。このセンターはモルディブの離島に住む教員へ、高速インターネット回線や最先端の設備を利用して、研修及び学習教材を提供します。



7月14日 モルディブで、大規模な薬物使用に関する若者グループによる調査を開始しました。このような薬物使用に関する調査はモルディブで初めての試みで、薬物乱用防止と薬物依存からの脱却キャンペーンにつなげていく予定です。この調査によって、津波発生後は薬物を使用する人が増加しているということが明らかになりました。

11月 インドネシアのアチェでは、少年司法改善に向けた活動の一環として、子どもにやさしい裁判室を設置し、12の警察署に子ども担当部署を設立しました。



復興支援を機に

「津波発生前よりも良い社会サービスを提供する」試みは、耐震性のある校舎や環境にやさしい下水処理施設の建設、栄養不良の削減などについてめざましい成果を上げています。しかし、完全な復興に向けてはさらなる努力が必要です。



12月26日